

# しみん基金・KOBE NEWS



2000年4月発行  
第1号

## 特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F) TEL078-230-9774 FAX078-230-9786  
E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

### しみん基金・KOBEの春

#### 市民の、市民による、市民のために

春の訪れが、こんなにも人々の心を和ませ心を開くものかと、毎年この時期には感じます。重いコートから開放されて、身も心も軽やかな表情が神戸で、また講演に出かける各地で見えます。一斉に咲き始める花々と共に、私の心も明日への期待に膨らんでくるような季節です。今年には震災五周年の時を迎え、記念行事や検証が多彩に行われ、震災で失ったもの、変化したもの、この五年間に何を得たのか、これからの社会にそれらをどのように生かすのか、議論が続けられています。

しみん基金・KOBEは、震災復興の振り返りからの教訓のひとつとして生み出された「市民の、市民による、市民のための」全国でも初めてのシステムです。多くの市民や企業、また行政サイドからの支援を得て活動を始めました。本年一月四日にはNPO法人格も取得し、ますます充実した活動をめざしてまいります。

震災の経験の中で得た、小さな蓄を大きく咲かせるために、その一助となるように、市民による拠出金が、市民のより豊かな生活を支えるための、生きた助成をしていきたいと考えています。

今年には理事であった、草地賢一氏の急逝というつらいスタートとなりました。氏が残された遺志を引き継ぎ、一人でも多くの方々の会員への参加でしみん基金・KOBEを大きく育ててまいりたいと思えます。皆様の暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。

しみん基金・KOBE理事長 黒田 裕子

#### 法人格を取得

昨年九月、兵庫県に特定非営利法人の認証申請をしておりますところ、この一月四日に正式に認証されました。翌一月五日には、兵庫県庁において黒田理事長に伝達され、一月二六日には法人登記も完了しました。

これで正式に法人としての道を歩むことになりましたが、三月にはいきなり決算・事業報告！初めての難関に戸惑いながらも、日々格闘の毎日をおくっております。

#### 紙面から

##### 第一回助成事業

タイズ財団パイク会長来日  
こうべいあいウオーク

柳田邦男先生特別講演会  
理事の横顔

古本市

会員とご寄付について報告  
草地賢一先生逝去

次号の予告・あとがき



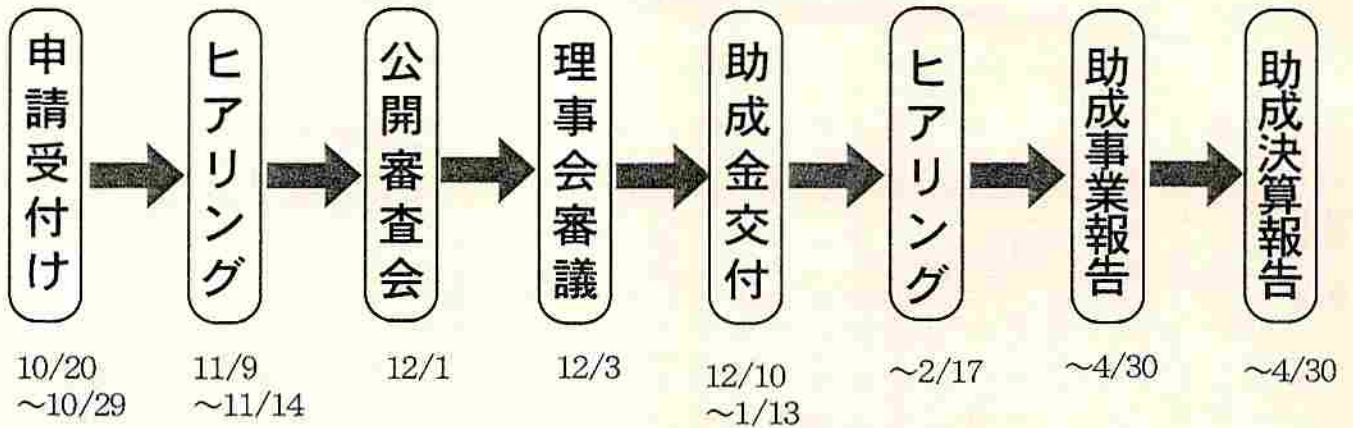


公開審査会

しみん基金・KOBÉ第一回助成事業が実施されました。申し込み締切りは去る十月二十九日で、三十九団体からの申し込みがありました。各団体へ当基金理事がヒアリングを行い、十二月三日に公開審査会、各団体のプレゼンテーションののち、総額約八百万円、十五団体への助成を決定しました。

# 第一回助成事業

## スケジュール



## 助成団体一覧

助成団体名	兵庫盲ろう者友の会
事業内容	元気の出る講演会
アジア女性自立プロジェクト(AWEP)	まち・コミュニケーション
在日外国人女性へのサポートシステム作り	コミュニティプラザ開設準備事業
いえなみ委員会	未熟児の会「びっころ」
新長田駅北地区東部「いえなみ委員会」の活動・運営	未熟児の家族に対するアフターフォロー
エフエムわいわい友の会	未来をひらく・マブイ六甲
外国人地域住民による多言語放送事業	障害者の仕事創出・街づくり参加事業
加古川移送サービス	ゆいまーる神戸
車イス利用者の移送サービス事業	高齢者・障害者の「心のケア」を目的とする配食・給食・介助・移動のプロジェクト
神戸垂水おやこ劇場	COM総合福祉研究所
こどもの年齢に応じた人間関係づくりワークショップ	ホームヘルパーのレベルアップ事業
在宅障害者自立支援センター「えほん」	NGO外国人救援ネット
ボランティア育成講座事業	多言語による外国人のための生活相談ホットライン
市民活動センター・神戸	W.Sひょうご
市民活動サポートセンター事業「市民活動センター・神戸」の運営	「夫・恋人からの暴力」についての啓発事業

(上記・あいうえおABC順です)



## 第一回助成事業を終えて

十月の理事会において事業概要が審議可決され、時間の無い中で準備がはじまりました。まずプレス発表、記者からの鋭いツツコミを受け流しながら内心冷や汗・・・。案内の作成、公開審査の調整とまだまだ事務局も落ち着かない時期の作業は本当に大変でした。

当初はどれだけの申請があるかとともに不安でしたが、十日間の申請期間に三十九件の申請を受け、うれしいやら・・・これからの作業を思うと気が速くなりそうでした。それから、申請書類の仕分け不備点のチェックこれも結構しんどかった。

そしてようやく理事のみなさんによるヒアリング実施。なにしろ初めてのことなので迷惑をおかけしました。スママセンデシタ。

何とかスケジュール調整を終え、ホッと一息したいところでしたが、ヒアリング結果のまとめが残っていました。これには手を焼きました。フォームを指定していなかったためにすべてやり直し。二晩徹夜で理事会(十一月)

に間に合わせました。

ヒアリング結果を審査員へ発送し、あとは当日を待つばかり、と思いきや、先生方から注文が、申請団体へ再度電話してヒアリング開始。時間との闘い。公開審査会のスケジュールも同時進行しながら、内容の詰め。広原審査委員長には毎日メール攻撃。ご迷惑をおかけしました。ようやく内容も煮詰まり申請団体への公開審査会内容通知とプレゼンテーションのお願い。そんなこんなでようやく当日を迎えました。順調に進行していく公開審査会、このまま何事もなく・・・そんなことはありません。

やっぱりありました、突然の審査員長から事務局への振り。またまた背中に冷たいものが・・・しかしさすがは手慣れたもの、審査員長の粋な計らいで無事審査終了。めでたし、めでたし。

即理事会開催、助成団体、金額を決定。団体への通知。そして覚書の締結をし、助成金振込と三ヶ月にわたる事業は終了しました。本当に沢山の皆様方のご尽力を得

て、つまづきながらも助成を終えられたことを心より感謝申し上げます。そして、今後共のご協力をお願いしたいと思います。

これから息つくひまもなく助成事業報告の収集、審査にうつります。

そんなところでは、最近、本業がなんだかわからなくなってきたという専務理事よりの報告にかえたいと思います。

拝

一九九九年神戸青年会議所理事長  
しみん基金・KOBÉ専務理事

瀬戸口 仁三郎



**タイズ財団  
ドラモント・バイク会長  
来日**

サン・フランシスコのNPOを代表するインターメディアアリー、「タイズ財団」のドラモント・バイク会長が来日されます。

詳しくは次号にて報告(連絡)させていただけますが、現時点(四月三日)でわかっている予定を報告させていただきます。

### スケジュール

- 六月 八日(木) 来日 神戸
- 九日(金) 福岡
- 十日(土) 福岡にて講演
- 十一日(日) 十三日(火) 札幌
- 十四日(水) 十五日(木) 仙台
- 十六日(金) 名古屋
- 十七日(土) 名古屋にて講演
- 十八日(日) 神戸にて講演
- 十九日(月) 神戸
- 二十日(火) 帰国

神戸では六月十八日、神戸市中央区東川崎町のクリスタルホールでの講演会を予定しております。



# こうべいウオーク

去る一月十六日、長田区のとかとり大園公園から中央区の東遊園地にかけて第二回「こうべいウオーク」が開催され、参加費の全額が当基金に寄付されました。「あいウオーク」かいかに生まれたかも含め、まとめて報告したいと思います。

## ◇サン・フランシスコNPOツアー

発端は一九九八年七月神戸復興塾が主催で企画した「サン・フランシスコNPO視察ツアー」だった。塾生、NPO、行政、研究者、学生、マスコミときざまな分野からの十三人が参加してサン・フランシスコに出かけた。格安の航空券を買い、モーターに泊まり、移動はもっぱらバスと徹底した貧乏旅行だった。市長室を皮切りに、まちづくり系、福祉系、多文化系NPOを訪問したが驚きの連続だった。もともと市民と行政の関係が歴史的にも全く違う、いわば文化が違うといっても過言でない。しかし、その考え方のわかりやすさには圧倒されてしまう。そんなツアーの最終日七月十九日エイズ撲滅と患者支援のチャリティーイベント「サン・フランシスコ・エイズ・ウオーク」に参加した。市内にあるゴールデンゲート公園におよそ十万人

が集まり、公園内を十キロ歩いて募金をするというイベントだった。市長をはじめ映画俳優、歌手、その他各界の有名人達が次々にステージに上がり挨拶する中、続々と人々が集まってくる有り様は圧巻で、このイベントで日本円で三億円以上が集められると聞くにおよんでは、市民パワーの大きさに言葉もなかつた。私自身は、シスコ最後のフリー時間ということもあり、ウオーク開始早々列を抜けて市内散策に出かけたが、塾事務長の田村君は登録を済ませゴールまで踏破し、密かに日本でもやる決心を固めていたらしい。

## ◇神戸版ウオーク

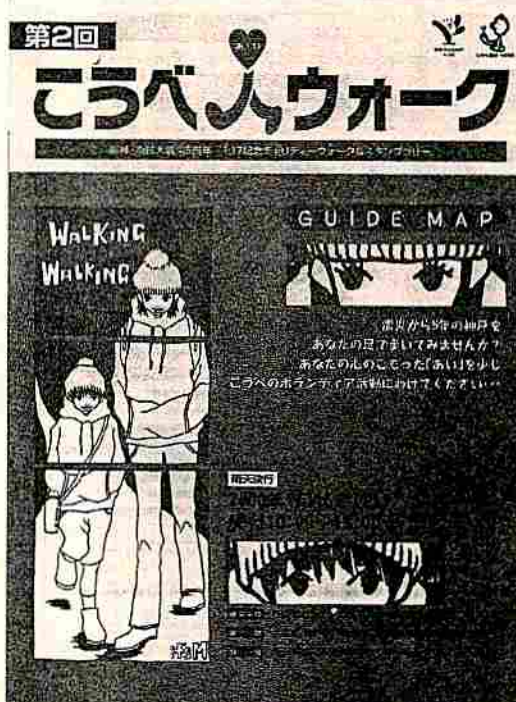
サン・フランシスコへ行く前から「阪神・淡路コミュニティ基金」「阪神・淡路ルネッサンス基金」の終了を控えて「市民基金」待望論が語られると同時に、設立を見通し

た集まりがもたれていた。復興塾も一メンバーとして会合に参加していたが、十月に開催したサン・フランシスコ報告会でまだ見ぬ基金のための募金イベントとして神戸版ウオークをやるうと決まった。最初の企画では「神戸ボランティア・ウオーク」あるいは「神戸Vウオーク」の名前だったが、「凱旋行進」のようなイメージは良くないという意見が出て最終的に「こうべい(あい)ウオーク」になった。

## ◇こうべいウオーク準備

実質準備は十一月の声を聞いてからという遅いスタートになり、おまけにあてにしていた助成金がだめになる事態も発生し、何度か無理ではないか止めるべきだ、五月に延期し

たらどうか等の意見が出て中断の危機に見舞われた。なによりも設立予定でしかない「市民基金」への募金を皆が理解してくれるだろうかという危惧があった。しかし、塾生以外の新たな応援団の参加もあり復興塾特有のイケイケムードに押されて準備は進められた。コースの決定、ボランティアの募集、スポンサー探し、事前広報等、初めてのことはかりで手探りとアイデア提案でなんとか乗り切った。ボランティアについては、神戸山手女子学園の高校生がクラブ単位で参加してくれることになった。企業へのスポンサー依頼は、年度の後半になっていないこともあり不況も反映して不調だったが、J R西日本が協力を約束してくれたことで大いに勇気づけられた。



「こうべいウオーク」のガイドマップ



◇第一回「こうべ」ウォーク

一九九九年一月十七日鷹取の大国公園には出発の一時前から予想を上回る人々が集まった。結局約三千五百人が参加し、二百六十万円以上の募金を集めることができた。丸五市場、新湊川公園、新開地、ではアジアグルメやぜんざい、甘酒などがウォークに協力してふるまわれた。参加者へのアンケートによると三分の二が県内からで残りは北海道や海外からの参加もあった。参加の動機については「募金の趣旨に賛同」「震災記念行事だから」「被災地を見たい」などが多かった。

◇第二回「こうべ」ウォーク

昨年のウォークの後の反省会で、準備時間が足りなかったという声が多かったが、結局本格的な準備がはじまったのは十一月。それでも昨年の実績と経験にものを言わせながら、ルートマップやポスターもより良いものに出たし、ボランティアの参加も昨年の神戸山手に加えて甲南女子や成徳、啓明、須磨等、学校単位での参加で倍以上に増えるなど継続することのメリットを感じることも多かった。結果としては、一月十六日開催ということで震災関連イベントが日程的に集中出来なかったにもかかわらず、また当日午後からの雨にもかかわらず参加者二千五百人で募金額二百万円以上を集めることが出来た。

◇「あいウォーク」と「しみん基金」

市民自らが「市民基金」に募金することで市民活動を支えるということとを最も目に見える形で分かりやすく提示したのが「あいウォーク」であったと思う。「あんなに沢山の人がありがとうといわれたのは、生まれて初めてだった」と感想を書いてくれたボランティアの高校生の言葉に象徴されるように、募金を目的としたイベントそのものが、それに

関わった人々のフィランソロピーを育てることが実際に進行していた。

「あいウォーク」の基礎はすでに整ったし、その趣旨も認知されたと思う。私たち「神戸復興塾」の motto である「誰もこれまでやらなかったことを、現場の知を活かしてやる」ことは達成できた。しかしながら、今後これを継続させ発展させることは、もつと重要である。今年の「あいウォーク」では「復興塾」中心の実行委員会方式の限界も指摘された。今後、参加者を五千人、一万人の大会に乗せていくためには、より広範な組織力を発揮していかなければならない。しかし、それはどちらかというところ「個々の知の自由な結集を掲げている「復興塾」の苦手とするところでもある。そこで、もちろんこれまでの経験を活かして実行委員会の中心として協力はするが、「しみん基金・KOBE」自体のイベントとして組織ぐるみの取り組みをお願いしたい。

被災した神戸の市民は、復興の過程で生まれた多くの自立的な市民活動を通じて新しい市民社会の誕生を予感している。「しみん基金・KOBE」と「こうべウォーク」は、市民自らが市民活動を支える新しい仕組みとして、全国に発信できるものだと信じている。全国から寄せら

れた支援に対するお返しとして、この二つを大きく育てていく責任が我々にはあると考えている。

神戸復興塾委員長・建築家  
しみん基金・KOBE理事

野崎 隆一



当日はあいにくの曇天でしたが、参加していただいたみなさん、ボランティアのみなさん、ありがとうございました。



参加者のみなさん



ボランティアスタッフのみなさん



## 柳田邦男先生特別講演会

三月五日神戸新聞松方ホールにおいて、当基金の顧問でノンフィクション作家の柳田邦男先生の特別講演会が開催され、約三百人の方が参加しました。「人の再生 まちの再生(死者からのメッセージを生かすために)」をテーマに講演され、入場料はすべて当基金に寄付していただきました。

この講演に先立ち、海文堂書店と、講演後の会場においてサイン会が行われ、その長蛇の列からは柳田先生の作家活動の実績を窺い知ることができました。

また、この講演会においては、チケット販売・広報の面で「海文堂書店」ならびに「生活協同組合コープこうべ」の御協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



柳田 邦男先生

## 理事の横顔



大阪大学人間科学部・助教授

渥美公秀

阪神・淡路大震災で被災し、避難所で風呂焚きに参加しました。その後、西宮ボランティアネットワーク(当時)に研究者として参加し、現在は、(特)日本災害救援ボランティアネットワークで、理事の一人として活動しています。研究室では「よい理論ほど実践的なものはない」という言葉をモットーに、グループ・ダイナミックスの立場から、ボランティアやNPOという社会現象について研究しています。現場で「せやせや! (そうだそうだ)」と感じて頂けるような理論を紡ぎ出すことが目標です。研究室も現場も、研究者と当事者との協同実践の場だと思っています。

様々な場で、臨機応変に活動するボランティアやNPOは、これからの社会の重要な担い手のひとつだとおもいます。「思い」を大切に『楽しく』活動したいものです。しみん基金では、当事者の視点をもった研究者であれたらと思います。どうぞよろしくお願ひします。

## 「六甲奨学基金」& 古本市

(財)神戸学生青年センターは、阪神大震災時の被災留學生・就學生支援活動の延長線上に基金をつくった。一三百万円を基金に毎年アジアからの留學生・就學生五名に五万円の奨学金を支給している。一方で募金を集めながら毎年基金から百万円を取り崩すと言う方針だ。計算では十三年続くことになる。

次第に募金の集まり具合が悪くなり、十三年間もたないのではと、始めた古本市が今回三回目となる。三月に古本を集め三月十五日から二ヶ月間市が立つが、この間センターロビーは約二万冊の本で埋まる。一年目は百四十万円、二年目は百九十万円、今年三年目は四人分の奨学金二百四十万円を目標にしている。文庫・新書・マンガ百円、単行本三百円(留學生半額)だから、すごい冊数が売れていることになる。昨年本好きのボランティアが「書店で分類を研究してきました」と言って分類してくれるとよく売れた。環境問題の段ボール箱から自分の持つている本だけを抜いて箱ごと買ってかえる人も出てくるのである。やはり手間を惜しんではいけないようだ。

今年五周年を迎える六甲奨学基金は震災時センター避難生活をした元留學生・ボランティア・歴代の奨學生を招いてパーティーを開く。震災で失ったものは大きい。震災が与えてくれた草の根の国際交流を大切にしていきたいと思う。

(財)神戸学生青年センター館長  
しみん基金・KOBE理事

飛田 雄一

古本市は(財)神戸学生青年センターにて3月15日から5月15日まで開催中(9時~22時)  
また、お手伝いいただけるボランティアも募集中。詳しくは、TEL 078(851)2760 FAX 078(821)5878  
E-mail rokko@po.hyogo-llc.ne.jp までお問い合わせください。



# 会員数とご寄付

## 会員数

正会員	個人	三十四
	団体	六
賛助会員	個人	五十一
	団体	七

## ラジオ放送

●（株）ラジオ関西（AM神戸）から、一月十日から同月十七日まで、当基金のCM放送の寄付をしていただきました。総本数は八十二本で、これは金額に換算すると、三百六十九万円の寄付をいただいたこととなります。

●NHKラジオ「朝のニュース」の（ふるさとさわやかさん）コーナーにて、松根茂子さんが出演され、当基金の紹介をしていただきました。番組中で松根さんに当基金設立の主旨や事業内容などを電話インタビューで話していただき、またその出演料を当基金に寄付していただきました。

## 近畿ろうきん NPO寄付システム

近畿労働金庫（以下近畿ろうきん）では、NPO・市民活動と広範な市民・勤労者をつなぐシステムとして、この四月から「近畿ろうきんNPO寄付システム」をスタートさせます。このシステムは「紹介NPO」の中から寄付したいNPOが選べるほか「紹介NPO」全体に配分する方法があり、寄付先のNPOから年一回ニュース・レター等の活動報告が届き、非常に透明性のあるものになっています。

また「紹介NPO」とっては、活動が広く紹介されるとともに、それぞれが低額であっても、労組基盤をはじめとした市民層からの定期的な寄付となり、財源の安定化につながるものです。

寄付はろうきん総合口座（普通預金）から自動振替にて行われ、毎月百円以上（百円単位）のコース（毎月・ボーナス時など）を選択することもできます。これにより参加者は気軽に、かつ主体的に寄付をすることができ、申し込みも「申出書」を近畿ろうきんへ提出するだけで、複数の寄付先を指定することもできます。

お問い合わせはお近くの「近畿ろうきん」の窓口まで

## もうひとつの おかえしプラン

社会福祉法人 大阪ボランティア協会では、冠婚葬祭時の「お返し」を登録NPOに寄付できるシステム『もうひとつのおかえし』プランの運用を開始いたしました。

これはまず、お返しの受取手の方に寄付者となつていただき『寄付先リスト』の中から寄付先を決定します。その時活動内容がわからなければ、相談することもできます。

そして、申込み、寄付先の決定の後カードを発注します。これは「お返し」を寄付したことを伝えるカードとなりますが、これは重度障害者多数雇用事業所や小規模障害者共同作業所に発注され、発送までの仕事の開拓という意味も持ちます。カードは内容を確認して七日以内に発送され、報告とカード代等実費分の領収書が届けられます。

寄付金が振り込まれた後、一ヶ月以内に寄付先NPOから寄付金領収書、礼状などが届けられます。

社会慣習としての「お返し」を形骸化させないためにも、社会的なミッションのもとに事業を行う市民活動団体への援助は、個人レベルでの新たな、また、身近な社会貢献の形と言えるでしょう。

お問い合わせは

社会福祉法人 大阪ボランティア協会  
〒530-0035  
大阪市北区同心一の五の二七  
TEL06-6357-5741  
FAX06-6358-2892まで

## 寄付者一覧

アカイケユウジ、イワシタアキコ、安田ともえ、オオバヤシヤスオ、こうべい、ウオーク実行委員会、サンクロード、地球が動いた日実行委員会、社会心理学者連、藤田正、大阪商業大学、河井明子、ササキカオル、阪神淡路コミュニティ基金、村井雅清、神戸のなおちゃん、井上倫代、ポートジュビリーアゲイン実行委員会、神戸青年会議所、アートエイド神戸、まちづくり市民財団、イングリット・ふじ子・ヘミング、コープボランティアサークルやすらぎ・佐伯幸子、井上平三、草地とし子、タナカヤスソウ、松根茂子、川一男、田中昭・今日子（おかえしプラン）、芹田健太郎・戎正晴、柳田邦男、村上和子（敬称略）

（三月集計）

## 募金総額

総額

二二、七〇〇、四五九円

ありがとうございました。



# 草地賢一先生逝去

「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」代表で兵庫県立姫路工業大学教授、当基金理事の草地賢一先生が一月二日に急逝されました。

生前はNGOの組織化、ネットワーク化に尽力され、これからの活躍を期待されていた方であっただけに、非常に残念でなりません。

当基金では草地先生の功績を讃え、遺志を受け継いで行くために、草地奨励賞を創設いたしました。



1999年 2月 福岡で講演された故草地先生

## 草地さん

草地さんとは震災後に出会い、この五年間事実上二人三脚で被災地における様々な活動をしてきました。草地さんのNGO界での活動歴は三十余年になるのですが、私がNGO界にいたのは震災後のわずか五年で、この間ことあるごとに「草地NGO論」に触れることができました。

特に海外の災害救援の現場において主張される、草地さんの「援助の哲学」には徹底したものがありません。

それは我々NGOの仕事は「被災当事者が自らの力で、一日も早く自立して行く為のサポートに徹する」ということでした。特に昨年のトルコ・台湾地震救援活動から、その点について議論を深めつつあった矢先の、突然の死であり、私にとつて実践の中で学べる機会であったのに、無念残念の感をぬぐえません。

「より援助の届かない人達に、より貧しい人達に」という姿勢を貫いた草地さんへの遺志を受け継ぎ、私なりの「NGO論」を構築して行くことが、草地さんへの恩返しになるかと思います。ご冥福をお祈りします。

被災地NGO協働センター代表  
しみん基金・KOBÉ副理事長

村井 雅清

## 名前をつけてください!

じつは・・・「しみん基金・KOBÉ NEWS」は頭に(仮名)が付きまます。名前が無いのでしかたなくこう呼んでいる状態です。そこで、よりみなさんに親しまれるために、名前をつけていただきたいのです。

名付け親になっていただいた方には「なんかいいこと」を考えています。ご応募は事務局まで、どうぞよろしくお願ひします!

## 次号の予告

次号発行は六月を予定しております。多分その号からは新しい名前になっているでしょう?

今回は

第一回助成事業の最終報告

タイズ財団バイク会長来日

第二回助成事業

などを中心にお送りします。どうぞ、お楽しみに!

## 編集後記

創刊準備号を発行してから約半年が過ぎ、様々な出来事を早く皆様にお知らせしなければと思いつつも、ニュースを作成することが出来ない状況にありましたが、この三月から「市民活動サポート・人材派遣事業」で、力強い助っ人が現れた、今回のニュースを発行することが出来ました。今まで一人ぼっちの事務局で寂しく感じていましたが、これで楽しく日々を過ごせそうです。皆様もぜひ一度事務局にお立ち寄り下さい。

(あ? 我常務理事も週に一度来て下さっています)

(み)

いよいよ春到来! 花の便りもちらほらと聞かれるようになり、もうすぐツバメも暖かい風に乗ってやってくることでしょう。創刊準備からしばらくたつてしまいい「いったいどうなっているのだ」とお叱りを受けたが、やっとここに創刊の運びとなりました。今後ともお引き立ての程よろしくおねがいします。

(や)

## 「しみん基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
団体会員 年間 10,000円

お申し込みは電話・ファクス・電子メールなどで、お名前(団体名・代表者名)電話番号、郵便番号、住所を当事務局までお知らせください。改めて郵便にて申込書を送付させていただきます。

振込口座 さくら銀行 三宮支店 普7965892  
みなと銀行 本店営業部 普1597921  
近畿ろうきん 神戸支店 普4161854  
郵便振替 00930-6-310874

口座名義 「しみん基金・こうべ」